がないといわれている。ここは標高870m で、田沢の向うにそびえる山（羽山）と同じ高さになる。昔、竹を割って水を張った手製のレベルで、このことが確かめられたという。

やがて尾根の北側に樹林を見るようになる。そして、路はこの樹林の中に入って行く。この樹林は大部分がミズナラの若齢林で、かつての薪炭林か、放牧地の跡であるが、一部にはブナの林も見られる。ブナと共に、クリ、コバノトネリコなどが見られ、林床にはスズタケが密生し、オオカメノキ、ヤマモミジなども多い。地表部にはコカンスゲが普通である。この、ブナースズタケーコカンスゲという組合せは、典型的な太平洋岸型ブナ林の特徴である。

路に沿って土塁が走っているが、これは、かっての馬の放牧の跡である。樹林の自然度は頂上に近づくほどむしろ低くなり、やがて、ミズナラの矮林を抜けた所で急に視界が開け、頂上のシバ草地につく。

頂上草地の東端の高みに、田沢の社がある。ここからは、北に霊山、南に大滝根の山容をはるかに望むことができる。大気の条件が良ければ太平洋も望まれる。また、ここから南に僅か下りた所に、天狗の跳ね石と呼ばれる

〔田沢の日山神社〕
手前がオニシバの草地で、周辺はヤマツツジを主とする低木群で囲まれている。

巨大な花こう岩の露頭がある。これは、日山残丘の岩体を形成している岩石で、今からおよそ１億年前の、アルプス造山運動の一時期に、地底から湧き出て固まったものである。

茂　原　口

茂原の社は、山頂草原の西端に茂原の方を向いて建っている。社のかたわらには、かつ